

# シンポジウム

## ◆テーマ

### 「新世代育成のため今なすべきロータリーの役割」



#### ●総合司会

**志藤和夫** (会津若松RC)

- ・有限会社新会津印刷所 代表取締役会長
- ・三洋印刷株式会社 相談役
- ・1987～88年度 RI 第2530地区ガバナー
- ・1992～93年度 アジア第1第3ゾーン  
ローターアクトタスクフォース



#### ●コーディネーター

**藤川享胤** (鶴岡RC)

- ・宗教法人般若寺 代表役員
- ・1999～00年度 2800地区ガバナー
- ・2001年度 第1ゾーンタスクフォース  
(エイズ教育)
- ・2001～03年度 ロータリー文庫委員
- ・2002年度 国際協議会研修リーダー
- ・2002～04年度 ロータリー財団第1ゾーン  
コーディネーター



#### ●シンポジスト

**田口絢子** (盛岡北RC)

- ・株式会社アリス 代表取締役
- ・第2520地区田口良一バスターガバナー令夫人  
(1987～1988)



#### ●シンポジスト

**吉原 輝**

- ・声楽家 (ドイツ在住)
- ・1998～99年 R財団奨学生  
(喜多方RC推薦)



#### ●シンポジスト

**佐藤美穂子**

- ・梁川郵便局 (非常勤)
- ・1999～00年 GSE派遣メンバー  
(梁川RC推薦)

志藤

本年度国際ロータリーのテーマ「人類が私たちの仕事」のもと、R I 会長リチャードD・キング氏は私共全ロータリアン、全クラブ、全地区に対して四つの目標に的をしばって挑戦する様要請されておられます。その

第一は、会員増強、教育、同化、退会防止と拡大  
第二は、クラブ内における教育、訓練の改善、会長エレクト研修セミナー、新会員の啓発誘導

第三は、ロータリーに対する公共的イメージ  
第四は、各ロータリー・クラブの強化拡大、であります。

このリチャードD・キングR I 会長の要請を受け、当地区の佐原ガバナーは地区内の全ロータリアン、全クラブに対して七つの目標を示され、挑戦する様要請されました。

その五番目に「新世代に夢と希望を」と要請しておられます。若者は地域の宝であり、日本の宝であり、世界の宝です。新世代の育成はロータリーの重要な責務です。各クラブで新世代のプロジェクトを計画し、展開、活動して下さい。地区内で62通りのプロジェクトが出来、各クラブの奉仕活動が个性的に展開し、新世代に夢と希望を与えることが私たちの願いです。と、特に強く要請しておられます。

本日のシンポジウムのテーマ「新世代育成のため、今なすべきロータリーの役割」とされたのも佐原ガバナーの熱い思いからであると思います。

本日のシンポジウムは、コーディネーターに藤川氏と3名のシンポジストをお迎えして行われるわけですが、ここで4名の先生方をご紹介申し上げます。

皆様からご覧になって左から  
コーディネーターの藤川享胤先生は、  
鶴岡RC1999年～2000年度R I 第2800地区ガバナー。去る4月シカゴで開催された規定審議会のSAAをお務めになり、エイズ教育のアジア第1ゾーンのタスクフォースをされ、2001年度よりロータリー文庫の委員もお務めで、2002年には国際協議会の研修リーダーをなされることになっております。

シンポジストの田口絢子先生は、

1987～1988年R I 第252地区（岩手県、宮城県）パストガバナー田口良一氏の令夫人であり、第2520地区盛岡北RCの会員でもいらっしゃいます。

シンポジストの吉原輝先生は、  
喜多方ロータリークラブの推薦で1998～1999年度R I 第2530地区R財団奨学生としてミラノで音楽を学ばれ現在は、ドイツのシュツツガルトで活躍されております。

シンポジストの佐藤美穂子先生は、  
梁川ロータリークラブの推薦で、1999～2000年度R I 第2530地区G S E 派遣メンバーとして、アメリカのアラバマ州に行っておられた方いらっしゃいます。

さぞかしすばらしいお話しをおききすることが出来ると思いますので、最後までご静聴をお願いいたします。

それでは藤川先生、よろしく願いいたします。

藤川

敬愛する志藤パストガバナーよりご紹介いただきました2800地区の藤川でございます。このシンポジウムのために頂いたお時間が1時間15分という限られた時間でございますので、早速シンポジウムに入らせていただきます。

皆様ご承知のように、国際ロータリーは年齢30歳までの若い人の育成を支援する全てのロータリー活動に焦点を当てるために、先月、9月を新世代の為の月間に指定致しております。

そして、「ロータリアンは青少年の模範」を標語として掲げる様奨励致しておるわけであります。

リチャード・キング国際ロータリー会長はもとより、佐原 元ガバナーも新世代の健全育成には並々ならぬ関心を寄せていることは、月信3号の冒頭に、「童心清し」というタイトルで、ガバナーの熱い胸の内を、皆様に訴えていらっしゃることで充分ご理解いただけるものと存じております。

しかも本年4月にシカゴで開催されました規定審議会において、決議案01-241としてR I 理事会に、「青少年奉仕」を新たにロータリー奉仕の「第5部門」に追加することを考慮するよう、要請する件として提出され、圧倒的多数で採決されたこ

とから見ても、ロータリーが世界的に、青少年の健全育成に大きな関心を抱いていることは容易にご理解いただけたと思います。しかしながら、ロータリーがどんなにお金を使おうとも、どんなに多くの有意義と思われるプログラムを提供しようとも、21世紀のロータリーの新世代育成の成否のキーワードは、ロータリアンは果たして真に青少年の模範になり得るかかどうか、この一点に絞られるのではなからうかと私は思っております。

ここ数年、日本の若者が危ないといわれ続けて参りました。特に昨年は、17歳のあの予想だになかった異常な犯罪行為の続出が、世を震撼させたのは皆様の記憶に新しいところであります。

しかも今、人は口を開けば、不景気、不景気の連発であります。マスコミも人ごとのように、5%の失業率、株価の低迷や底の見えない不透明な日本経済の凋落を、あたかも民衆の味方を装うが如く、政府を攻撃することだけで、その任を果たそうとする程度の低レベルの現実であります。

私は経済学者ではありませんから、世の多くの人々が何を対象に不景気、不景気と言われているのか定かではありませんが、もし10数年前のバブル経済を対象にして今の景気が不景気と言うならば、ロータリーの始祖ポール・ハリスは今の日本の状況をすでにみすえたように、こんな警鐘をすでに数十年前私たちに示しているのであります。

繁栄は際限の無い憧れであり、窮乏は悩みと悲嘆の種である。

我々は忘れていたのだ！

いつの世でも逆境が偉大なる人格を形成してきたことを

また繁栄によって強健な国民が育ったためしがないことを

繁栄は精神的にも、肉体的にも人を怠惰にする。

即ちこれ滅亡の前兆である。

ポール・ハリスのこの言葉を借りるとするならば、もしバブル経済がわが国の絶対的繁栄だったとするならば、あの繁栄は実は日本人を精神的にも、肉体的にも人を怠惰にする滅亡の前兆だったのであります。

そう受けとめて腹を据えてしまうならば、今こそ、我々自身の人格形成や新世代の健全育成の為に、これほど時期を得た時は無いのではないかと私は受けとめているのであります。

しかしながら一度怠惰に慣れ親しんだ人間が立ち上がるには、想像以上の大きなエネルギーと怠惰に決別する勇気と強い意思力が必要なのであります。

MANKIND IS OUR BUSINESS

「人類が私たちの仕事です」

リチャード・キング国際ロータリー会長が今年度私どもに示して下さったテーマを受け、佐原ガバナーは新世代育成のために、さすればまずもって我々ロータリアンが先頭に立って、この怠惰に決別する勇気と強い意志力を示そうではないかと本日のシンポジウムを企画なされたのであります。

それを受けて私は、本日のシンポジウムの前段は、ロータリーが青少年のためにこれまで提供し続けてきたいくつかのプログラムに、実際なんらかのかたちで深くかかわってこられた三人のシンポジストの皆様から、それらのプログラムをどうして得た数々の教訓やメリット、そして出来れば、このプログラムを更に充実したプログラムにする為の良きアドバイスなどを織り交ぜてお話を頂きたいと思っております。

はじめに、昨年の四月、作山ガバナー一年度に、G S Eのメンバーの一人として、アメリカのアラバマ州に一ヶ月間研修に行かれた佐藤美穂子さんにお話を頂きます。

佐藤

私はG S Eプログラムでアメリカのアラバマ州に1ヶ月間行かせて頂き学ばせて頂きました。この体験は私が今まで経験したものの中で一番大きなものでした。このシンポジストという大役も私にとっては初めての経験です。

ロータリーは、私に多くの初めての体験を与えそれによって私は沢山の事に気づくことができました。

G S E研修際、私は4才になる一人息子を残り、一生に一回しか無いチャンスだと、やっとの思い

で家族を説得しアメリカに渡りました。実際に行つて、沢山の素晴らしい人に出会い見て、学んで様々な事を吸収し得るものは数多くありました。

しかし、一番強く感じた事は「自分には一体何ができるんだ」「なんて自分は小さいのだろう」という事を嫌と言うほど思い知らされました。ホストファミリーに最初はお客様として迎えられ“お姫様のような待遇でした”。しかし、慣れてくると英語で自分の気持ちを伝えられないアメリカについての質問、日本についての説明もできないようでは、相手にされないということに気づき始め、自分の勉強不足を痛感しました。

英語を話せて初めて本当に対等に意見の交換・交渉ができるのだと思い知らされたのです。英語を話す国での研修と初めから分かっていたながら、十分に準備していなかった自分自身に腹が立ちました。そしてその時です。私が英語を本気で学び直そうと考えるようになったのは。

もう1つこの研修を通して大きなインパクトを受けたことは、アメリカ人の学ぶ姿勢の素晴らしさでした。私が知り合った人の中には、50才まである会社に勤められ、そこを自ら退職なされ、大学の医学部に改めて入学、現在ドクターとして活躍しておられる方がいらっしゃいました。もちろん、そういった才の人や自ら真剣に学ぼうとする人達には、色々な育英資金というシステムが助けになると言うものの、50才を過ぎて悠々自適の人生を過ろうとする人達の中に新たに苦勞を覚悟の上、第2の人生にチャレンジする姿を見て大きな感動を覚えました。

そこで帰国後、もう1度勉強するために自分のやりたい科目だけを取る科目履修という形で週に2回大学に通って勉強し始めました。

社会人として若い学生と一緒に勉強し感じた事は沢山あります。自分のように目的意識を持って勉強している生徒が少ない事。私は自分の稼いだお金で勉強している訳ですが、高い学費を親に出してもらっている回りの学生がもっと早く自分の目標を定め、それに向かって進んだら良いと思いました。しかし、実際のところ私が18才の頃、今のような意識を持って真面目に勉強はしていなかつ

たです。

アメリカでは勉強したい強い意志さえあれば何才からでももう一度学ぶ事ができる。そのための機会や学校が沢山あるそうです。生涯学習の意識の強さが感じられました。まだまだ社会人の学生などほとんど居ない我大学。そんな中、家庭が有り子供がいて仕事をしている私が若い生徒達に混じって勉強している姿を回りが見てどんな風に感じるか考えたことがあります。生徒や回りが私を1つの例として、こういう選択肢もあるんだ、こういう人もいるんだと注目してくれたらと思います。そして、できるだけ沢山の学生と交流し、今しかない時間の大切さ、学ぶ事の意味、GSEでの体験や妻、母、職業人としての経験を伝えて気付けてあげられたらと思っています。

大学で勉強しているうちに「社会に私が役に立っている事はないのか？」と考えるようになりました。社会全体の何かを変えたとしたら、やはりてっとり早い近道が、子供達だなど思いました。英語を通して子供と関わり詰め込むだけの親の先ばりの教育では無く、楽しく学ぶ感覚を子供達に感じてもらい、英語をコミュニケーションの道具として使い、広い世界を観て一人ひとり、胸をはって積極的に相手に意志を伝える能力を磨くお手伝いをしたいと思っています。

そしてそうする事が、GSEプログラムを通して私が得たメリットに対してロータリーに恩返しできる唯一の道だと信じております。GSEは、私に沢山の物を与えてくれました。GSEでの数々の素晴らしい体験を自分のものにしておくだけでなく、妻、母、職業人、学生といろいろな立場にいる私が、私の回りにいる人達に機会あるごとにこの貴重な体験を話して行きたいと思っています。

藤川

有難うございました。ここでロータリー財団について少し触れておきたいと思います。皆様ご承知のように、ロータリー財団には、W. F. 世界活動資金とD. D. F. 地区活動資金の二つがございます。皆様より毎年頂いておりますロータリー財団へのご寄付は、一括してロータリー財団の本

部に集められます。そしてそこで3年間プールされまして、投機によって得た利息と集めさせていただいた総計の40%はW. F. 世界活動資金として、残り60%は、集めた年の3年後に各地区に戻され、D. D. F. 地区活動資金として活用して頂いているのであります。ちなみにW. F. 世界活動資金としては、GSE、同額補助金、ヘルピンググラント、(ロータリーのない国や地域の支援活動プログラム)等に、D. D. F. 地区活動資金は、それぞれの地区のガバナー、直前ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、地区ロータリー財団委員長の5人の皆さんがおたてになられたワークシートに基づいて、教育的プログラム、人道的プログラム、ロータリーセンター、(世界7カ国にロータリーセンターを設立し、ロータリーが指定した8つの大学のなかに、国際間の紛争の解決や、平和の増進に役立つ学部を設置し、そこで勉強する各大学10名の学生を、物心両面にわたって支援するプログラム等に使われるのであります。ちなみにこのプログラムは2002年9月からスタートし、日本では、国際基督教大学の中にこの学部が設置されることになっております。ただいまご発言いただきました佐藤さんは、W. F. 世界活動資金をご利用なさってのGSEメンバーの一人として研修をいただいたわけでございます。

次に、当地区のD. D. F. の教育的プログラム、ロータリー財団親善奨学生としてイタリアに留学され、現在ドイツで引き続きご自分で働きながら勉強を続けておられる吉原さんにお話をいただきます。

吉原

私の受けたプログラムについて

プログラムは一年間、10ヶ月、9月～6月まで、ヨーロッパ(イタリア)のシーズンに合わせて秋から夏というものでした。

プログラムは全般的に非常によく考えられたものであり、すぐれているものであったと思います。またその内容については「親善プログラム」つまり、人との交流をはかり、お互いの理想を深め、友情をはぐくむものと私は考え、その実行に努め

ました。どのような点がすぐれていたのかというと、準備期間のシステムがしっかりしているということで、初めて外国へ行く人にとって大変安心できるものであると思います。例えばアメリカ、エヴァンストンの本部のコーディネーターと密に連絡をとり会いながら準備をすること、語学研修も用意されていることなどです。

さて、現地での実際の活動はといいますと、各個人によって様々であります。自主的に活動できる場でもあります。またホストロータリアンによっても全く違ってくると思います。私の場合は大変恵まれていました。私のホストロータリアンは会計士であり会計事務所の社長、兼、特許関係の事務所の社長で、午前中は会計事務所、午後はまだひとつの事務所、また出張も多く忙しい中、夕食に彼の自宅に招待していただいたりと、心やさしく私をもてなしてくれました。

ここで印象的だったミラノでの例会の体験をお話します。例会は火曜日の夜8時から10時過ぎまでということでした。場所はミラノの郊外、社長さん達の住む高級住宅街にある高級ホテルでした。まず、食前酒を片手にロビーで始め、それから上の階のレストランへ行き前菜からのフルコース、しかもその日はワイン特集ということで、数種類のワインの試飲を説明つきで行われました。普段アルコールを飲まない私はクルクル回る頭でしかも外国語のイタリア語で話を聞いて例会に参加した思い出として心に残っています。それにしても流石、食の文化の国イタリア、話し好きのイタリア人による例会であると感じました。

ここで1年と2年プログラムについて少しお話しをしたいのですが、上限2万5千ドルということで奨学金を現地の貨幣価値に合わせて支給されます。私が不思議に思ったのは、実際、1年プログラムと2年プログラムで支給される額が同じで、2年プログラムの場合、同額を2年分に分けていただく、つまり、一度の支給額が半分になってしまうということです。これについてはやはり厳しい試験をしていただき、2年プログラムの方には1年プログラムよりも多く支給していただければ

と思います。

先程、藤川コーディネーターの方からありました「怠惰」からの脱出ということですが、私はロータリークラブ、財団のお陰で留学させていただき、この怠惰からの実践をすることができました。やはり、人間はいつもハンディキャップを持ち、感じることで勤勉でいられる弱い生き物だと思います。外国において、言葉に対し、また音楽家としては、西洋のものであるというハンディを常に感じ生きていける環境に私はあります。これもロータリークラブのお陰と、この場をお借りして御礼申し上げます。

#### 藤川

イタリアでのロータリーの例会の様態などを織り交ぜての興味深いお話を頂きました。吉原さんには、先ほど本会議の冒頭、国家を独唱していただきましたし、このシンポジウムの後の記念コンサートで自慢ののどをたっぷりご披露していただく予定でございます。

偏見の少ない14歳から18歳までの青少年を世界のいたるところに派遣し、国際理解と親善を推進する意義ある活動として評価の高いプログラムが、青少年交換プログラムであります。現在世界で一年間約7500名、日本では約400名の若者がこのプログラムに参加しております。ちなみに今年度当地区では、5名の派遣学生と5名の受け入れ学生、計10名がこのプログラムに参加しております。他の国から希望と不安の入り混じった複雑な気持ちで来日する留学生のホストマザーを何十回とお勤めいただいております、盛岡北クラブの田口絢子さんにお話を頂きます。

#### 田口

与えられたお時間を三つに分けてお話したいと思います。

はじめは、私が交換留学生をお引き受けすることになったきっかけをお話します。

二番目は、いままでホームステイを経験した中で感動した出来事の一つ二つお話したいと思います。

おわりに、ロータリーはこれからこの青少年プログラムにどう取り組んでいけば良いのか私の経験から考えを述べたいと思います。

はじめに、私がホームステイをお引き受けすることになったきっかけですが、昭和45年、盛岡北クラブではじめてカナダからの高校生を一年間引き受けることになりました。盛岡では盛岡クラブに次いで二番目の留学生でした。当初、盛岡北クラブの会長さんのお宅にホームステイすることが決まっていたのですが、到着の一週間前急に会長さんの奥様が入院され、ホームステイ先がなくなって困っていました。当時ロータリー入会まもない主人は国際奉仕委員長でした。

ある日突然「カナダからの女の子を我が家にホームステイさせるよ」といわれました。私はそのとき五才の長女と一才の長男の子育て真っ最中でしたが、主人の頼みに「なんとかやってみましょう」とわけもわからず一年間の長期にわたってお引き受けすることになりました。

いまでこそ、この交換留学生のプログラムは地区全体で見直されていて、留学生を引き受けるにあたってのマニュアルなどもこと細やかなアドバイスが書かれています。当時はまったくの手探りででした。いまから三十数年前的ことです。

しかしこの一年間の経験がなかったら今日の私達はいなかったと思います。無我夢中でお世話させていただいた一年間、家族の協力とロータリアンの友情でなんとか達成したとき、ホームステイを引き受けることは決して難しいことではなく楽しいことだと学ばせていただきました。

それから今日まで、長期交換留学生、短期交換留学生、GSEの団長、団員、姉妹クラブのロータリアンと家族、友情交換のロータリアンと家族、等々たくさんの方をお世話させていただきました。

あるときは韓国からの高校生を引き受けました。二十名ほどでしたがクラブのみなさんと手分けして引き受け、冬の時期でしたのでスキーの体験をしていただきましょうと、八幡平にある会員の別荘に分けて泊め、四、五人に一人ずつスキーの出来る人がついて三日間スキーを教えました。夕食は会員夫人が集まって手料理を作りました。その

ときの韓国からの留学生は大変礼儀正しく、食事のときも私達がお箸をつけないうちは決して食べ様としませんでした。私はスキーも一緒にやりましたが一日目二日目と上達していくとその喜びと感謝の気持ちが言葉は通じませんでしたが、ずっとと伝わってきて本当に楽しい経験でした。いまでもあのときの韓国の高校生の礼儀正しさはクラブの語り草になっています。

VIPの方のホームステイもございました。国際ロータリーの元理事、呉先生ご夫妻がお泊りいただいたときは、どのようなおもてなしをしたらいいのかと緊張しましたが、あのとき一緒に川辺をサイクリングしたことが一番の思い出です。

さて、たくさん思い出がありますがその中で感動したことをお話します。これも一年間お世話した男の子でした。ある日曜日の出来事です。前日、「おかあさん、明日の朝はボクがいいですよというまで起きてこないでください」というものですから主人となにかなあと思いながら寝ていました。やがて寝室のドアが「トントン」とノックされ「どうぞ、起きてください」といわれ主人と恐る恐る食堂にいくとそこにすばらしい朝食が用意されていました。「おかあさん、お誕生日おめでとう。これはオーストラリアの朝食です。ボクがお小遣いで材料を買って今朝調理しました。この朝ごはんはボクがオーストラリアのおかあさんの誕生日に作ったのと同じです。オーストラリアではこの朝ごはんをベットへ運びます。でも日本ではベットで食べる習慣がないので、どうぞここで食べてください」……

自分の息子や娘にさえしてもらったことがないことを……私と主人は胸がいっぱいになってしばらく食べることはできませんでした。

またこんなこともありました。これも男子ですがクリスマスに「おとうさんプレゼントです」と小さな包を主人はもらいました。開けてみると立派な表札です。実はそのとき我が家には表札がかかっていませんでした。彼は不思議に思ったのでしょうか、高校の美術の時間に手作りですべて彫刻して田口というすばらしい表札を作ってくれました。「高橋さんとか斎藤さんとかむずかしい名前

でなくてよかったね」と笑いましたが、その表札はいまでもわが家の玄関に掲げられていて、私たちは出かけるときもまた帰ってきた時もその表札をながめてあの時の感動を思い出しています。我が家の宝ものです。

思い出は限りがありませんが、ではこれからロータリーはこの交換留学生のプログラムにどう取り組みればよいのでしょうか。

ロータリーの情報はロータリアンだけのものではありません。奥様にそして家族の方々にその情報が伝わっているのでしょうか？

ロータリーをもっと家族と共に楽しむことができればロータリーはもっともっとすばらしいものになると思います。ロータリーはホームステイというすばらしい経験にチャレンジするチャンスを与えてくれます。たしかに言葉の壁や、家の構成や家族の問題があつてなかなか引き受けてがいないのが昨今の問題です。私もお引き受けしている間に一週間とか十日とか家を空けることがあります。そんなときロータリーの友情でその間だけ留学生を引き受けてくれるクラブの会員と家族がいます。長くは出来ないけど一日なら二日ぐらいなら……そんな会員と家族の方々にいつも助けられています。

留学生を引き受けることは、学校にとっては、先生そして生徒たちはその留学生を通して国際理解を学びます。地域においてはお祭りやイベントに参加して留学生は異文化を肌で学び地域の人達と交流を深めます。留学生たちはこの体験を通して日本の文化習慣伝統を学び、日本への理解を深めます。このことは留学生も私たちもお互いの違いを理解することによって、国際理解と親善が深まり、それはやがてロータリーの究極の目的「世界の平和」へと繋がっていくのではないのでしょうか。このことは私たちができる平和への仕事（人類が私たちの仕事）だと思っています。

#### 藤川

三人のシンポジストの皆様より、体験に裏打ちされた貴重な、しかも力強いご意見を頂戴いたしました。

このほかに、ロータリーは青少年のためにインターアクトクラブ、ロータアクトクラブの設立やライラのプログラム等の提供によって、彼らの健全育成のために大なる貢献をしております。しかしながら最近全国的に、インターアクトクラブ、ロータアクトクラブが設立された当時の新世代育成に対する熱い思いが、ロータリアンの心の中から消えかけているのでは無かるかと囁かれていますのも事実であります。当地区には現在、インターが10クラブ、279名、ローターが7クラブ、71名で活動中ですが、両クラブの活動状況や問題点、問題点があるとすれば、それに対する対策など、本日、このフロアにおられるでありましょう、地区小委員会委員長さんに本日のシンポジウムの第2段としてお話を頂きたいと存じます。

笠原宏男インターアクト委員長さんいらっしゃいますか？ご無礼ではありますが約三分間でお話いただければ有難く存じます。

#### 笠原

当地区のインターアクトクラブの小委員長を努めさせていただいている笠原でございます。今コーディネーターの藤川先生からもご紹介がありましたように、当地区では10のインターアクトクラブがあり、約280名の会員が活動しております。10のインターアクトクラブということは、当地区のロータリークラブは62ありますので、残り52のクラブの会員の方々はほとんどインターアクトクラブについて知識・理解は少ないのではと考えております。又地区では、インターアクトクラブは高等学校だけのクラブであり、そのため、高等学校の学校のクラブ活動の一貫として認められているということに大きな特徴があります。そのため、クラブ活動ということで指導される先生方、又高等学校の校長先生、さらには県の教育委員会の方々の御支



援、御協力もいただかなければ、インターアクトクラブの提唱していく、あるいは維持していくのが困難であるという問題があります。

これは私自身の考え方ですが、新世代を育成するというよりは、インターアクトクラブの高校生と一緒に、ロータリアンが協同の奉仕作業をすることで、そこから私達自身が学ぶことが多いと思います。この事業に参加するにはインターアクトメンバーは大人になりかけてはいますが、さきほどシンポジストとして発表された佐藤さん、吉原さんのような大人ではありませんので、そういう意味ではインターアクトクラブをバックアップするのはむしろ嬉しい面もあります。

では、問題点は52の直接かかわりのないロータリークラブの方々には、御理解の少ないロータリアンが多いと思われるので、ぜひ協同提唱とか、そうしたものについて御相談されることをお願いします。

地区といたしましても、近年成功した事例が2つほどございますので、色々クラブの方々にアドバイスできるかと思われます。時間をオーバーしてしまいましたのでざっとした話なんです、よろしいでしょうか。

#### 藤川

新妻良一ロータアクト委員長さんお願いいたします。

#### 新妻

地区のロータアクトの小委員長をやっている新妻です。

ロータアクトの現況は、ただいま社会人のクラブが5つ、短大のクラブが2つあります。インターアクトクラブよりクラブの数が少ないということと、地区によってはロータアクトのないところもあり、ロータアクトに関する理解がロータリアンの方々に少ないものと思っております。



最近のロータアクト会員の構成は、以前ロータリアンの子弟がロータアクターだった時代から、一般社会人が多くなってまいりました。以前はロータアクトの活動もお金を出して、彼等に活動をまかせればよいという時代もありましたが、最近ではそれではすまされなくなってきたように感じられます。それで今年は前におられる相双地区の佐藤ガバナー補佐にお願いして、先日、会長・幹事会に出向きまして、うちのほうの相馬・相馬東クラブで協同提唱していますロータアクトクラブと、先ほど笠原委員長が話されていたように協同事業の提唱ということで、地区内で実施されている書き損じハガキの回収事業をロータアクトクラブにやらせていただけないかと、会長・幹事会の御理解をいただいて、これからの正月の書き損じハガキの事業展開として、まず相双地区内でテストケースとして取組んでみたいと思っております。

又、相双地区の小委員長になってから、ロータアクトクラブの例会に出席してみてロータアクト事業もロータリアンの理解を得るためのPRがたりないことがひとつと、私どものロータリークラブで提案したプルタブの回収をやっていましたが、ロータアクトの会員の増強はこの経済環境のなかで、なかなかむずかしい状況であり、又事業展開にロータリアンの協力が得られませんかと活動内容もマスコミに取り上げられることもないのが現況であります。そのため、ロータアクトの事業をロータリアンとの協同で書き損じハガキの回収をとりあげて軌道にのせたいと考えています。

私もロータアクトのメンバーとつきあいはじめて、Eメールだけで連絡がとれるかと思いましたが、メールを送ってもなかなか返事がこないと思ったら、彼等は携帯電話のメールで連絡をとりあっている、私もこの年になって親指メールとはいきませんが、携帯の一つをメール用として投資して連絡をとり合っていますが、これですとすぐ返事が返ってきます。自分達もロータアクトの理解がないと事業も通信手段さえないのかなと思っております。現在、色々模索している段階でございます。

今後は区に一つのロータアクトクラブが設立されるように努力していくのが今期の目標かなと考えており、これができれば2530地区のロータアクトの活動が活発になるものと思っています。

#### 藤川

地区ではロータアクト、インターアクトの年次大会は行っていますか。

笠原 両方ともやっております。

#### 藤川

インターアクトクラブ、ロータアクトクラブを提唱していないクラブが多いわけですから、これ等のクラブをインボルブするにはスポンサーしていないクラブの会長、幹事、新世代委員長を年次大会に参加し、新世代の若者と交流を取ることにより拡大につながるのではと思います。ありがとうございました。

阿部治郎ライラ小委員会委員長さんいらっしゃいますでしょうか？

阿部 阿部でございます。

私はロータリアンとしては新米でございますが、たまたま佐原ガバナーから今の若者とどうしたらいい方へ育てられるかということで、佐原ガバナーがいう使命として、生残りと発展を願うということでききうけました。

私は過去にホテルにたずさわっておりまして、会場として若者を受け入れたんですが、その時、佐原ガバナーが委員長としてやっけて、なかなか規律正しい立派な若者が集まっているなという感じがしました。今、小泉さんもさわいでいますが、国内でボランティアという言葉がでてきております。私はここで若者にボランティアを植えつければいけないということを佐原さんから使命として受けました。今年





度は来年5月に裏磐梯のホテルを借りて、自然の中でボランティア活動を行います。

それには今までの正常者だけのライラが多かったわけですが、やはり身障者がこの世の中でこうやって生きているということ、何かアピールしたいという計画をもって、佐原ガバナーの指導を受けているところでございます。

藤川 有難うございました。

佐原ガバナーは月信の中で次のように述べられております。

《私は、どんな時代が移り変わろうとも、その流れの中で変わっていいもの、変わっては成らないものがあると思います。わが国は、20世紀前半は、戦いに明け暮れ、後半の50年は、復興にかけ、努力、努力の毎日でした。欧米文化の影響を受け、教育にはPTAが出来たり、各自が車を持つ車社会、食事では肉食が多くなったり、トイレも洋式等急速に復興いたしました。

しかし、それと同時に、日本古来の大事な文化を失ってきたような気がします。努力、努力で体にムチを打って働いて、欧米諸国に追いつきました。しかし、その結果、家庭や子供たちを顧みる余裕すらなくなり、一番大切なこと、子供たちへの「しつけ」すなわち「家庭教育」を忘れてしまいました。日本特有の生活哲学、人間らしい「思いやりの心」を育むこと、生活上の判断を「損」か「得」かだけでなく、「皆のためになるかどうか」の大切な基準を今こそ家庭に戻さなければ、真の意味での青少年の健全育成にはならないと思うのです。》と述べられております。

そこで3人のシンポジストの皆さんよりご自分の経験をとうされての「家庭教育」の大切さを述べていただければ有難く存じます。

今回は最初に田口さんからお願いいたします。

田口 わが家の子育て論

今はもう、それぞれが成人して結婚し家庭人となった息子と娘は二人ともローターアクトの会員でした。息子は同じ医大の友達とアクトの会員でした。現在息子とその友人はそれぞれが地域医療

に専念しています。

娘は国際ロータリーのローターアクトアジア委員でした。台湾や韓国でのアジア委員会に参加しましたし、二人とも国際大会や国内のローターアクト大会に随分出かけていました。今思うと父親のロータリーの奉仕活動が子ども達に影響したのでしょうか。私たちはロータリーに感謝しています。

私の家庭で大事にしていることは、「思いやり」です。どんな些細なことでも家族で「思いやり」の気持ちで話し合います。相手を尊重してその言葉にまず耳を傾けます。一人一人がそれぞれの考えを言える家庭、それを聞いてくれる家族、これがわが家の信条とでもいうのでしょうか。

吉原 子育て

私は現在独身で特にこの分野の専門家でもありませんが、子育てというものを文化の一部として話させていただきたく思います。

基本的にはイタリア、ドイツとも日本と似たような問題をかかえています。例えば、夫婦共働きによる家庭環境の変化です。ここで非常にすばらしいと思ったドイツの産休制度についてお話します。ドイツではなんと3年間は確実に保障されているということです。産休後は同じ地位に戻れないことはあっても産休前の地位と同等のものに付くことが約束されているのです。また公務員である教職員は5年から7年の間産休が可能だそうです。

さてイタリア・ドイツの家庭のしつけについて○日本の家庭に比べて、実際のことばにしてよくコミュニケーションをよくとる。

○スキンシップ、いわゆる肌の触れあいもとても大事にする。

○子供にはっきり主張をさせ、しかも子供に対して親は「ノー」と否定できる。

私、個人的にはこれらを真似する必要はないと思います。それよりもっと根源的なところを見つめるべきだと思います。彼らはつまり「自分の文化」を誇りに思っている、また大事にしているのです。

イタリアではイタリア語、ドイツではドイツ語を学び、その言語で多くの人達と交友関係を持ち、家庭の中も垣間見ること、言語も生活も学問ではなく大きな意味での文化であると再認識致しました。

ここで音楽の例もあげながら私の考える21世紀の「子育て・新世代育成」大きくは文化に関するカギとなるであろうことを述べたいと思います。

ひとつは「文化・伝統の現在進行性」ということです。「文化・伝統」は生きていなければ、私達の生活に存在し続けていなければならないと思うのです。

音楽の世界では次のようにいわれます。楽譜を作曲者が書き、それを演奏家によって演奏されることで作品としてそこに存在する楽譜は例えば200年前のものもあるし、200年後もあるでしょう。しかし演奏家というその時代の生の人間を通して再現されつづけるわけです。当然のことながらその演奏の具合は時代と共に変わっていくでしょう。例えばモーツァルトが今日演奏されている彼自身の作品に驚くかもしれません。そこで我々演奏家に求められるのは本質を理解しているということです。その本質つまり真実を見失わなければ、その音楽はモーツァルトとしてあり続けることができるのです。

翻って「文化・伝統」についても私達はその本質を見失うことがなければ、現代に生きる「文化・伝統」というものを持ちつづけることができると思います。このことは先程藤川コーディネーターより紹介された佐原ガバナーの意図するところにもつながるのではないかと思います。

\*2つ目ですが、ひとことでいうならば、「新しい個人と社会のあり方」を我々は共同で創りあげていかなければならないということです。御存知の方も多いかと思いますが、オペラ「フィガロの結婚」というのがあります。モーツァルト作曲、ボーマルシェ原作です。この話に見られる18世紀後半、フランスでの貴族社会の崩壊、いわゆる封建制度、社会の崩壊です。その後、ヨーロッパでは新しく個人主義が発達したのです。

現在、20世紀終わりから21世紀初頭にかけては

情報化社会、特にコンピューターと携帯電話の各家庭あるいは各個人への普及はひとつの大きな「革命」のようなものです。今後、私達は新しい社会とのあり方、生き方を探していかなければならないのです。

この一見、相反する2つのテーマ「文化、伝統の現在進行性」と「社会における新しい個人のあり方の探究」をかかげて生きていくことが、すなわち新世代の育成、家庭のしつけにも反映していくものと私は考えております。何よりも海外の経験から日本の伝統・文化は大切にしていかなければいけないと思います。

佐藤

同世代の親も私もそうなのですが、子供が可愛いあまり痛い思いをさせたくない、転ぶ前に全ての障害物を取り除いてあげたり、できるだけ苦勞しないように楽な方へ安全な方へ導いてあげようとしてしまいます。その結果、子供は転ぶ事も上手にできなくなってしまいます。転び方を知らない子供が大きくなって突然転んだ時、それはきっと大きなダメージになるはずですよ。

それよりも何よりも子供の人生にとって転ぶこと以上に大切な事は、転んだ後に一人で立ち上がる力をつけさせる事だ思うのです。今回GSEでアメリカに行った時、アメリカの人々は夫婦・親子・友達同志でhug（ハグ）という抱きしめる行為が日常茶飯事行われている事に気がつきました。

もし、私の息子が何かのタイミングで転んだ時、私はすぐには助け起こさず、手を差し伸べて彼自身の力で辛抱よく一人で起き上がるのを待ちつづけたと思います。

そして、立ち上がった時、アメリカで真のあたりにしたあのhug（ハグ）という抱きしめる行為を私の子供にしてあげたいと思っております。

もう1つ、アメリカに行って分かった事ですが、アメリカには公文とか塾とかがほとんど無いことに気が付きました。そして家庭の中で特にお父さんやお母さんが、子供達の不思議がる心、例えば“虹はどうしてあんなにキレイなの？”“自動車は

どうして走るの？”“飛行機はあんなに大きいのになぜ空を飛べるの？”“お月さまは空にいてどうして落ちてこないの？”そういう子供達の不思議がる心をしっかり受けとめ、大事に育てていることに感動を覚えました。

抱きしめるという行動で子供に絶対なる安心感を与えるhugという行為と子供の不思議がる心をしっかりと受けとめるという2つの事を私の子育ての信念にしていきたいと思っております。

#### 藤川

3人のシンポジストの皆さん有難うございました。

私たちの愛する子供や孫たちがはじめから悪くなるよう育てほしいと願っている親や、祖父母はこの世にいないはずであります。しかしながら、我々が良かれと思ってしている事柄や、思いの中に実は、子供たちの健全育成に大きなマイナス作用を及ぼしている事柄や、子供たちの本当の心の叫びや、訴えを受け止められない何かが私どものサイドにあるとするならば、しかもそれに気づかずに、子供たちの、孫たちの喜ぶ顔が見たい、そう思ってスタンスを改めずにその何かをし続けるならば、子供たちは間違いなく悪くなっていくのであります。その何かの一つが、私は家庭内における過保護ではなかろうかと思っております。つまり、我々日本人は、物が豊かでない時代の子育てのノウハウは分かっているのですが、今日のように、物が豊かすぎる時代の子育てのノウハウの中心には、過保護との決別という顔がしっかりと居座っていなければ、次代を担う若者の健全育成は出来ないのでは？と私は思っております。

そこで私は、一昨年ガバナーを勤めさせていただいたとき、新世代健全育成の見本として、まずもって、我々ロータリアンから子育て、孫育ての原点を見直しましょう、と地区内全ロータリアンに、ドイツの教育学者グスタフ・ホスの著書、「父親の在りよう」のなかに出てくる10ヶ条の戒めをご提示させていただきました。

彼は言うのです、遠くても歩かせよ、雨が降っ

ても迎えに行くな、電車では立たせよ、高い山に登らせよ、子供の部屋の整理を手伝いな、遠慮なく使いに出せ、朝子供を起こしてやるな、仕事をさせよ、仕事がない探させよ、甘えん坊は決して作るなよ。

元国際ロータリー会長、アーサー・ラガーはこう言っております。「実行の伴わない行動は、理想のない行動と同じく有害無益である。」と。本日のシンポジウムのなかに、もし新世代の健全育成に参考することがございましたら、ぜひすぐに行動に移していただければ、有難く思うしだいあります。

子どもはいろんな御縁をいただいてロータリアンになりました。はじめからイヤでイヤでしょうがなく、ロータリアンになったお方はほとんどいないはずであります。「誰があなたの心にふれたのですか？」、貴方がロータリアンになる為に、「誰が貴方の心にふれたのですか？」これは、リチャード・キングRI会長のお言葉であります。このお言葉をお借りするとするならば、「新世代の心にふれるのはだれでしょうか？」という問いに、私は即座にこう答えるであります。それは、まぎれもなく私どもロータリアンです。と。だからこそ、「ロータリアンは青少年の模範」ですという標語を掲げられるのだと思うのであります。

限られた時間でございましたので、十分に語り尽くせなかったことお許しいただきとう存じます。ご清聴いただきましたことに心より感謝申し上げ、本日のシンポジウム「新世代育成の為、今なすべきロータリーの役割」をこれをもって閉じさせていただきます。ありがとうございました。

#### 志藤

先生方には感銘深い貴重なお話をいただき大変感動を受けました。本当に有難うございました。

最後に改めて先生方に感謝をこめて大きな拍手を送り、シンポジウムを終らせていただきます。

有難うございました。